



賞状とメダルを持ち笑顔を見せる吉田さん

輝いています

NHK杯全国中学校放送コンテストアナウンス部門入選

ひと

よし だ たい き 吉田 太樹 さん

楽しみながら来年も全国に

中 学校生活の中から素材を集め、それを元に書いた作文を朗読し、原稿の出来栄えや朗読の技術などを競う「NHK杯全国中学校放送コンテストアナウンス部門」。このコンテストで全国から958人が参加した地区大会を勝ち抜き、全国大会で入選を果たしたのは、第一中学校文芸部の吉田太樹さん（14歳・南町4丁目）です。

文芸部では、毎年、部員全員がコンテストに出場しています。交流のあった先輩に誘われ入部した吉田さんも昨年初めて出場しました。小学生の頃から朗読が好きだった吉田さんですが、コンテストが声変わりの時期と重なり思っ

たとおりの声が出せなかったため、予選敗退。悔しさの残る結果となりました。それから1年間は、低い声を安定して出すことや、滑舌をよくするための発声練習に取り組んできました。

今年テーマにしたのは第一中学校にある『使われなくなった写真真室』。1年生の頃、幽霊が出るとうわさになったこの教室にまつわる話を、ミステリー風に仕上げました。「想像しながら楽しく聞いてもらえるように工夫しました」と、吉田さん。そうして読み上げたものは、聞きやすく語りかけながらも、要所では力強く畳みかけるように話すことで緊迫感を与えるなど、緩急を生かしており、審査員からも「ユニークなテーマを上手にまとめており、よく伝わってくる」と好評を受けました。そして、地区大会を勝ち抜いた220人が出場した全国大会で上位入選を果たしました。

来年が最後の挑戦になる吉田さん。「次もおもしろいテーマを見つけて、もっと上位に食い込みたい」と意気込みます。今回得た自信と持ちこたえの低い声を武器に、更なる高みを目指していきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 巖にあり

— No.30 —

中国の古典『山海経』に登場する異人・手長足長に手長猿と手長えびが加わって、取れるはずのない月を取ろうとしています。暁斎は、この画題を肉筆でも版画でも描きました。本図は、「猿公獲月」という故事を、暁斎がユーマラスに翻案して描いた作品です。猿公獲月は、身の程をわきまえずに能力以上の事を試みて失敗することのたとえです。

河鍋暁斎記念美術館 11月2日(金)～12月23日(日・祝)
「暁斎が生きた時代と妖怪画」展 同時開催
「暁斎プラスワンシリーズ28 初代彫蓮 暁斎に魅せられて「式」」展

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日～末日
年末年始
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円
中学生～大学生500円
小学生以下300円
(20人以上の団体は要予約)
詳細 = 同館 ☎441・9780



展示会の詳しい内容は美術館のホームページをご覧ください



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎
天保2年(1831)～明治22年(1889)

暁斎筆「手長足長獲月図」



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます